

## 平成26年度第1回廃棄物減量等推進審議会会議録

### 1 開催日時

平成27年3月19日(木)

開会 午後 1時15分

閉会 午後 2時15分

### 2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1

### 3 出席委員

大橋 勝人、成田 暢彦、山下 昌代、谷口 悦予、松原 しず、本間 彰、  
浅見 洋子、白坂 弘子、松原 八壽雄、松原 裕子 10名

### 4 欠席委員

鈴木 敏広、原 忠己 2名

### 5 傍聴者数

1名

### 6 出席した事務局職員

市民生活部長 小池 勲、環境課長 石坂 清二、環境課長補佐 川本 英貴、  
環境課主査 西本 康一

### 7 議題

- (1) 一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について
- (2) 平成27年度予算の概要について

### 8 会議の要旨

環境課長	<p>定刻になりましたので、ただ今から平成26年度第1回 尾張旭市廃棄物減量等推進審議会を開催させていただきます。</p> <p>会を進めさせていただく前に、ご報告させていただきます。地域活動連絡協議会から推薦されている委員が、恒川さんから浅見さんに変更されました。したがって、本日お席に配布させていただきました委員名簿のとおりで進めさせていただきますので、よろしくお願い致します。</p> <p>それでは、はじめに市民生活部長より挨拶をさせていただきます。</p>
市民生活部長	<p>皆さま、こんにちは。市民生活部長の小池と申します。本日は、大変お忙しいところ平成26年度の第1回廃棄物減量等推進審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>また、今回委員をお引き受けいただきました浅見様、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本日は次第にありますように、2つの議題をあげさせていただきます。</p>

1点目は、今年度からスタートしました一般廃棄物処理基本計画につきまして、この1年間、市が実施してまいりました取り組みの内容や新年度の活動予定をご報告させていただきます。

2点目は、平成27年度予算の概要につきまして、新年度に予定しておりますごみの減量・資源化の推進方策等に関する様々な事業の主なものをご報告させていただきます。

皆さまの貴重なご意見をいただきまして、廃棄物のより一層の減量を進めてまいりたいと考えておりますので、本日はよろしく願いいたします。

環境課長

本日は原委員から欠席のご連絡をいただいております。鈴木委員は、欠席のご連絡をいただいておりますが、まだお越しいただいておりません。したがって、本日の出席委員は10名であります。

委員の半数以上の方にご出席いただいておりますので、本審議会条例第7条第2項により、本審議会は成立しております。

また、本審議会は、市の「附属機関の会議の公開に関する基準」に基づき、傍聴を認めております。

そして、本審議会の会議の記録文書及び会議の録音の公開につきましては、「附属機関の会議録等作成に関する基準」に基づき、情報公開の対象となることも、あわせてご承知いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、会議を始めます前に本日の資料確認をさせていただきます。

事前配布させていただきました資料は、ご持参いただけましたでしょうか。もしお持ちでないかたがお見えになりましたら事務局までお申し出ください。

それでは次第に従って議題に入ってまいります。ここからは大橋会長に議事の進行をお願いいたします。

大橋会長

年度末が近づいており、大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

今年度から新しい一般廃棄物処理基本計画がはじまり、1年が経とうとしておりますので、この1年の進捗状況、また来年度の予定などについて事務局から説明をいただき、議論したいと思いますので、よろしくお願い致します。

それでは、次第に沿って審議会の進行をさせていただきます。

2 議題 (1) 尾張旭市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について、資料1により事務局から説明をお願いします。

環境課長補佐

<資料1、別紙で説明>

大橋会長

ただいま説明のありました、尾張旭市一般廃棄物処理基本計画の

	<p>進捗状況について、ご意見・ご質問等ございましたらお願いします。</p>
<p>松原八壽雄 委員</p>	<p>プラごみを毎週収集することについて、基本計画にないことが唐突に予算化されたことについて、少なくとも事前に循環型社会推進会議あるいは当廃棄物減量審議会を開催し、市民からの要望が多いことを報告し、予算化することについて了解を取るべきであったと考えます。</p> <p>しかし、毎週収集することについては、プラごみはやはりかさばりますので、市民サービスの観点からはサービス向上につながるのではないかと思います。</p> <p>ただし、プラごみの毎週収集は、経費拡大につながり、安易に予算化し推進するのではなく、基本施策 No. 25 の事業者と協働で進める「市民にとって便利なりサイクルステーションの設置」の前倒し実施も考える必要があると考えます。</p> <p>しかし、汚れたプラごみは臭いの問題もあり、汚れたプラごみの混入を避けることができるか検証する必要があると思います。</p>
<p>環境課長</p>	<p>今回の事務の進め方につきましては、事務局の配慮が足らなかったため、不愉快な思いをされた方もおられると思います。大変申し訳なく思っております。まずは、お詫びをさせていただきます。</p> <p>今後につきましては、基本計画の取り組みに掲げております「市民にとって便利なりサイクルステーションの設置」について、スケジュールの前倒しも検討しております。その際には、事業者に意向を確認し、また事業の実施にあたっては、当審議会や循環型社会推進会議のご意見を聴きながら進めていきたいと考えております。</p> <p>その上で、前倒しや試行を行っていき、その効果を検証していきながら進めていきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。</p>
<p>大橋会長 成田委員</p>	<p>他にご意見・ご質問等ありませんでしょうか。</p> <p>私は名古屋市に住んでおりますけど、名古屋市はプラスチック製容器包装を週1回収集しています。</p> <p>プラスチックごみは、松原委員が言われたように、汚れているのに洗わずに出されるとか、いろいろな問題があると思います。</p> <p>そこを今回検証し、データで明らかにして、本当に週1回の収集が必要かどうかを判断されたらと思います。例えば、市民の方は便利になるとは思いますが、便利がどこまで増すのか、一方でプラスチックごみの品質が落ちてしまうという悪いことも考えられます。そのようなことを試験的に週1回の収集をやられる中で、データをとって、本当にプラスチックごみの週1回の収集が必要かどうかを</p>

	判断されたらと思います。
環境課長	<p>どれぐらい便利になるかということについては、試行を実施する地区の市民の方にアンケートを取るなど意見をお聴きし、また品質につきましても、ルート収集による品質と店頭で回収する品質を見比べながら、どのような状況で出されているかを検証しながら進めていきたいと考えております。</p>
大橋会長	<p>他にご意見・ご質問等ありませんでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、今回のように計画に記載のないことが予算に計上され、計画に携わっている人が報道で初めて知ってしまうことは、誠実な対応とは思えません。その進め方は、市として良くなかったと思います。</p> <p>このような計画や、計画を推進する会議もあるので、今後は事前に循環型社会推進会議に諮るなどの対応で計画を進めていただきたいと思います。</p> <p>それでは、次に進みたいと思います。</p> <p>(2)平成27年度予算の概要について、資料2により事務局から説明をお願いします。</p>
環境課長補佐	<資料2で説明>
大橋会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま説明のありました、平成27年度予算の概要についてご意見・ご質問等ございましたらお願いします。</p>
松原八壽雄 委員	<p>雑入にプラごみ再商品化拠出金100万円とありますが、これは、プラごみのリサイクルには、多額なお金がかかるため、事業者から拠出金を出させて、リサイクルに要したお金を差し引いた半分を、市町の負担を軽減するための費用にあてられるものです。しかし、リサイクルに要した費用の残りの半分ということと、リサイクルして、かつ拠出金が余るということは、メーカー側として出しすぎという観点があって、それを減額していくというシステムとなっています。ですから、どんどん減っていくので、平成20、21年度には1,600万円程度あったものが、平成25年度には80万円になり、当初の20分の1程度の非常に少ない金額になっています。</p> <p>今、プラごみの収集と分別に要している費用が約3,000万円程度かかっており、拠出金は3%の100万円程度しか期待できません。このような状態で、プラごみの分別を進めるとするのは、大きな矛盾、負担を抱えていると考えます。</p> <p>隣の瀬戸市はプラごみを分別せず可燃ごみとして出しており、国の施策と異なる方法を選択していますが、国の施策と異なる方法を選択するということは、国から締め付けがあるのではな</p>

いかと私は考えます。

私もかつて、尾張東部循環型社会推進会議に属していた際に、瀬戸市に対して、プラごみを分別せずに燃やすのは問題であると申し入れたことがあります。それは、リサイクルは常に良いものと考えていたからであります。

また、容器包装リサイクルは、マテリアルリサイクルをするのが主流であります。これは選別が厳しいため、中間処理のコストが非常に高くなりますが、サーマルリサイクルであれば、多少汚れているプラスチックでも受け入れられるため、中間処理のコストが少なく済むと考えられます。

したがって、容器包装リサイクル法を含めた幅広い検討が必要であると考えます。その中で、分別収集を続けていくのか、どのようなリサイクルの方法を選択するのかなど、いろいろなケースを想定し、固定した考えでなく、様々な要因を考慮して柔軟に施策を進めていくべきであると考えます。

環境課長

プラスチックごみについては、集めれば集めるほど市の持ち出し費用が増えていくということで、全国的な問題にもなっております。ただし、国の施策として法律でも定められておりますので、近隣の市町でプラスチックごみの分別収集を行っていないのは瀬戸市のみです。しかし、その瀬戸市にも関係方面から、非常に強い指摘が寄せられており、担当の方が苦慮しているようです。

プラスチック製容器包装の処理の仕方については、5年に1度国の方も見直しを行っておりますが、市町村の持ち出し費用が非常に多いということで、市の方からも見直しにあたっては、意見の方を出ささせていただきました。

また、この問題については数年前から問題提起されておりました。新たにこの基本計画の取り組みNo.41「プラスチックごみの処理のあり方について検討します。」に掲げられております。

したがって、今のまま続けていくのか、また他の方法がないのかなどを、国の施策の動向を見守りながら考えようということで、今後皆様から意見を聴きながら検討していきたいと考えております。

大橋会長

他にご意見・ご質問等ありませんでしょうか。  
ないようでしたら、事務局からお願いします。

環境課長

長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。

今回は、今回ご議論いただいた内容を事務局で整理・検討し、事務を進めていきたいと思っております。

なお、委員の皆様の任期は6月末までとなっております。改選時に改めてご連絡させていただくことになると思いますので、よろしく申し上げます。

以上をもちまして、平成26年度第1回 尾張旭市廃棄物減量等推進審議会を終了いたします。